

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	教職概論（幼・小）		
担当者(Instructors)	虎岩 朋加	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

公教育における教職の社会的意義と教員の職業的特徴を理解するとともに、教職観の変遷を知り、今日の教員に求められる資質能力について考察する。教員の職務全体を把握し、教員研修の意義と生涯にわたって学び続ける姿勢の重要性に気づく。また、学校内外の専門家や諸機関と連携してチームとして組織的に取組むことの大切さについても学ぶ。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義形式で行うが、テーマに応じて意見発表や意見交流も随時行う。講義ノートを作成して講義内容や考察・意見・感想を書き入れ、毎時のテーマについての理解を深める。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	現代社会と教師の現状－1980年代以降の教育問題と教師への信頼性	教職への思いを語り合い、学習へのモチベーションを高める。 1980年代以降の教育問題をめぐる動きをたどり、教師への信頼性低下をはじめ、現在起きている様々な教育問題に至った経緯を知る。	<input type="checkbox"/>
第2回	教師の役割（1）「教師」と「教員」	あるべき「教師」像と、学校組織の中での現実的な「教員」という実態を対比的に学び、教職の実像に迫る。	<input type="checkbox"/>
第3回	教師の役割（2）教員の職務と協働性	教師の身分や服務、勤務条件について知るとともに、職務の厳しさを同僚性・協働性で乗り越えていく教師の姿に迫る。	<input type="checkbox"/>
第4回	教師の歴史－聖職・労働者・専門職	「聖職者」に始まり、「労働者」「専門職」そして「高度専門職」に至る教師観の変遷を通して教師の「やりがい」について考え、「学校はブラック職場」という言説の真偽について議論する。	<input type="checkbox"/>
第5回	教師と生徒の関係－権威関係と権力関係	いわゆる「ブラック校則」に象徴されるように、価値観の多様化、教師の権威低下という時勢の中で、教師が指導し児童生徒がそれに従う、という関係性について改めて考える。	<input type="checkbox"/>
第6回	専門職としての教師（1）専門職の要件	教師が「専門職」「高度専門職」とされる必要条件について、多角的に考察する。	<input type="checkbox"/>
第7回	専門職としての教師（2）教師の専門性	いわゆる「教師力」とは何かについて、授業力や学級経営、保護者対応などさまざまな場面を想定して考え、教師の専門性を追究する。	<input type="checkbox"/>
第8回	教師の資質・能力（1）資質・能力の構成	現代の教師に求められる資質・能力とは何かを、子どもの立場、保護者立場、地域社会の立場、そして社会の要請から考える。	<input type="checkbox"/>
第9回	教師の資質・能力（2）資質・能力の向上	教師とは資質・能力の不断の向上が必要な専門職であることを理解し、そのために実践されている様々な公的研修・私的研修について知る。	<input type="checkbox"/>
第10回	教師教育制度（1）教員養成	社会が求める教師像の変化に伴う、大学での教職課程の内容や教員養成をめぐる制度の変遷について知る。	<input type="checkbox"/>
第11回	教師教育制度（2）現職研修	現職研修の制度的な仕組みと、具体的な取り組み例について紹介するとともに、これからの教師に必要な資質・能力について考える。	<input checked="" type="checkbox"/>
第12回	教師教育制度（3）指導力不足教員の指導改善研修	指導力不足教員の実情と、その改善研修の実際について知る。	<input checked="" type="checkbox"/>
第13回	教師が育つ環境（1）学校での「出会い」	出会いと別れを繰り返しながら、同僚性・共働性により育まれ、成長していく教師の姿について知る。	<input type="checkbox"/>

第14回	教師が育つ環境（2）教師を支援する人々と「チーム学校」	「連携」をキーワードに、家庭・地域との連携、多様な専門性をもつ職員との連携を通して、より高い教育効果と教員の働き方改革の両立を探る。	<input type="checkbox"/>
第15回	教員評価の課題－評価による教師の成長	学校評価におけるP D C Aサイクルや、「教員育成指標」を活用した研修のあり方を通して、成長と向上を続ける教師の姿を知る。	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前に書籍やインターネット等でテーマについての予習（2時間程度）をし、事後に授業内容や配付資料をもとに講義ノートを整理したり、課題プリントに取り組んだりして復習（2時間程度）する。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題プリントや講義ノートの記録や小レポートの記述の中で、考察を深めるきっかけとなるものを次回授業で紹介し、問題意識を共有する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	現代社会における教職の意義と役割、職務内容を理解している。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	現代の教師が置かれている状況や、今日的な教育課題について自分なりの考えをもち、表現できる。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	教師の資質・能力と専門性の向上について探究し、職業選択に向けて教職のあり方を検討できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			30%	70%

授業内試験等(具体的な内容)(Specific contents)

毎回の授業ノート（講義記録・考察）の内容と授業内でのレポート作成

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて資料を配布する	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	参考書はそのつど紹介する。	
2		
3		
4		
5		